

併の方針を伝え、説明した。「国内生産は伸びない。会社を残すには規模のメリットが必要だ」

クラタは1990年代前半、マツダから軽スポーツカーの完成車組み立てを請け負った有力企業だ。梶田さんも誇りを持っていて、それでも単独では生き残れない。「広島でマツダだけに依存してはいけけない時代が来たのか」。意識が転換した瞬間だった。

マツダはバブル崩壊後に経

# 生き残り



①効率を追求したキレックスの本社工場。合併からの歩みを振り返る梶田取締役(右)と旧三浦工業出身の幹部(撮影・高橋洋史)  
②フォードとの共同開発車の生産方針を記者会見で説明するミラー社長(1999年2月、東京)

化した06年からの「モノ造り革新」にもつながる。キレックスが11年に始めたセル生産は、その理念を部品の立場で形にしたものだ。  
キレックスは今、中国、タイ、メキシコに生産拠点を構える。マツダとトヨタ自動車も建設する米国の新工場近くにも、ワイテック、トヨタ系の会社と共同で工場を準備している。「広島に軸足を置きながら、マツダの海外戦略を支える」。梶田さんには新たな誇りが芽生えている。(村上和生)

## 木製サッシ共同開発

山根木材ホームと石崎本店



共同開発した木製サッシの施工例

住宅建築の山根木材ホーム(広島市南区)と自動車用のガラスやミラー製造の石崎本店(安芸区)は共同で、木製のサッシを開発した。両社のコラボは初めて。消費者や工務店に高いデザイン性を売り込む。

窓ガラスをはめ込む枠部分を木製にした。住宅に多く使われているアルミ製や樹脂製と比べて結露しにくく、木のぬくもりを感じられるのが特長という。「ひびき」と名付け、両社が今月から本格販売している。注文を受けて石崎本店が生産し、山根木材ホームが施工する。

サッシはかつて木製が中心だったが、生産コストや加工のしやすさなどでアルミや樹脂が普及した。木の魅力が見直されているとみて、再び市場の拡大を目指す。新設の住宅着工戸数が伸び悩む中、山根木材ホームはリフォーム向け製品を強化しようとしている。石崎本店には、自動車に加え住宅向けガラスにも力を入れたい意向があった。3年前から共同で研究してきた。

既存のアルミサッシの上にも取り付けられる。ガラス1枚を囲う1枠が3万円台から。初年度は50枠の販売を目指す。(新山創)

## 定額制研修の契約企業募集

メイッ中国

総合人材サービスのメイッ中国(広島市中区)は、来年4月に始める1年間の「定額制研修プログラム」

漬物製造の山豊(広島市安佐南区)は、赤シソふりかけの「ゆかり」を合わせた広島菜漬けを発売した。ゆかりの全国的な知名度を借り、広い地域で売り込みたいと意気込む。ゆかりは三島食品(中区)の主力

ゆかりとコラボした広島菜漬け



## 広島菜漬けに「ゆかり」入り

山豊発売 赤シソ風味生かす

のふりかけを企画開発から、広島で売った。山豊がアレンジし、10円。などで売

中国経済